

岡山蒜山でフォーラム開催



日本ジャージー登録協会(東山佑介会長)は、去る9月5日、6日の両日、岡山県真庭市の蒜山高原において、「2012 ジャージーフォーラム おかやま」を開催した。

蒜山高原は岡山県西北部に位置し、蒜山(標高1202メートル)山麓にあり、標高500～600メートルの高原にあるため、気候は夏でも涼しく、西日本でも有数のリゾート地となっている。また、蒜山は真庭市の一部であるが、市の花があるように、ここでは市の動物がジャージーである。

今回のフォーラム参加者は、北は北海道から南は熊本県まで広範囲にわたり、全国9都道府県から41名の酪農家や関係者が集まり開催された。

蒜山地区乳牛共進会を見学

フォーラム初日、参加者は前泊をして、ひるぜんジャージーランドに隣接している蒜山ホースパーク馬術競技場で、朝9時から開催された第52回蒜山地区乳牛共進会を見学した。

出品者は蒜山酪農協管内の酪農家で、ジャージー種は4部門 37頭、ホルスタイン種は8部門 31頭が出品し、快晴の中開催された。審査員は北海道の酪農家瀬能剛氏が招待されていた。さすがジャージーの本場だけあり、ホルスタイン種よりも出品頭数が多く、見応えのある共進会であった。

各部の入賞は次のとおり。

【ジャージー部門】

第1部(10-16月) ロングスト オオラ IT プリティー H23.6.23 父:イトーラ (有)長恒牧場

第2部(16-22月) アサハ SS ネスル アミール H23.1.14 父:アマデオ 筒井大悟

第3部(3歳未満) キャミオー サルタン ロイヤル A フタコ H22.6.24 父:サルタン 筒井大悟

第4部(3歳以上) キャミオー イトーラ ロイヤル H21.7.3 父:イトーラ 美甘正平

【ホルスタイン部門】

第1部(8-10) ロングスト ホルスター ローソティー プリンセス H23.12.12 父:ローソティー (有)長恒牧場



(おか酪・東山基組合長挨拶、左が瀬能剛ジャッジと細野淳アシスタント)

- 第2部(10-13) TMF アドベント ダブル アンジェリカ H23.11.19 父:アドベント 筒井大悟
- 第3部(13-16) タウンヒル ミリオン アンラッキー H23.8.6 父:ミリオン 長恒充
- 第4部(16-19) カヤベ クリス スタリオン ティアラ H23.5.29 父:スタリオン 中国四国酪農大学校
- 第5部(19-22) ロングスト マダム ゴールド フーチー H23.1.23 父:ゴールドウイン (有)長恒牧場
- 第6部(3歳未満) ロングスト フレス ホルトン H21.12.30 父:ホルトン (有)長恒牧場
- 第7部(3歳級) ロングスト ヘンドリカ アドベント ショー ET H20.12.16 父:アドベント(有)長恒牧場
- 第8部(4歳以上) クラ ジョイ マドキャップ H19.10.30 父:ジョイ 入澤牧場



(手前がグラチャンの「キャミオン サタン ロイヤル A フタグ」筒井大悟さん出品の初産牛)

(後ろがリザーブの「ロングスト フレス ホルトン」(有)長恒牧場出品の初産牛)

最後にグランドチャンピオン戦が行われ、第3部ジャージーが初めてのケースで栄冠に輝いた。リザーブは第6部ホルスが、ジュニアチャンピオンにはジャージーは第1部出品牛、ホルスは第1部出品牛がそれぞれ選ばれた。上記一覧のとおり、長恒牧場（泰治さん宅）が両品種で強く、筒井牧場は第2部ホルスの未経産で11月の全日本BW出品を狙っている。ジャージーの3部と4部は姉妹で、いずれも美甘正平さん生産。今後、ジャージーの上位牛は県共に進むことになる（ホル種は次の津山管内予選会を経て県共）。

フォーラムでは各県の取り組み報告

共進会終了後、ひるぜんジャージーランドで始まったフォーラムでは、日本ジャージー登録協会の東山会長から、このフォーラムは2年に一度開催の予定が、全共開催が延期されたため延びてしまった。おかやま酪農協、蒜山酪農農協の協力により4年ぶりにこの催しが開催でき、その事前準備などの労をねぎらった。続いて、地元蒜山酪農農協真田善弘組合長から、遠くから来ていただき、その参加者全員が地元共進会を参観していただいたことに対し感謝の言葉を述べた。また、県農林水産部畜産課中塚陽二郎総括参事から、蒜山の地に昭和29年に草地酪農を推進のため、ジャージー牛がニュージーランドから導入され、今では全国一の飼養頭数となったところである。観光客も年間280万余に来ていただき、酪農と観光が共存している旨の挨拶があった。



（東山会長）



（真田組合長）

【近交の話題提供】

話題提供では、「ジャージー種における近交係数のたかまり」について登録協会から説明があり、新たなハプロタイプ遺伝病JH1が昨年アメリカで発見されたこと、近交係数がこの4年間で急上昇し、最近の登録牛の3割が6.25%の危険域にあることや、まとめとして登録をして近交を避けるべきであると説明があった。

【登録協会からの統計】

次に、ジャージー統計データについては登録協会から、飼養頭数は概ね1万3,000頭で、登録頭数は1,000頭で推移していること。7年間の登録雌牛を父牛別でまとめたものでは、

アンドレア ザ ショーグン(娘牛 589 頭)が群を抜いていたこと。そして、主要地域の検定成績も掲載し、わが国のジャージーの平均乳量は 6,000kg を越えるまでになった等の説明があった。

【蒜山酪農協の取り組み】

続いて、蒜山酪農協でのジャージー牛の取り組みについて石倉健一部長から紹介があった。同農協では、ジャージー牛にこだわって運営している。この地へジャージーが導入されたのは昭和 29 年で、以来 50 余年が経ち、現在 31 戸で 1,875 頭を飼養し、年間 7,318 トンの生乳を生産している。組合の主な事業内容は、牛乳、乳製品の製造・販売や牛の生産に係ること、育成牧場の運営もしている。そのほか、雄子牛ジャージー肉や、観光にも力を入れている。組合員である酪農家に対しては、牛乳の乳質管理を徹底し、夏は乳脂率 4.7% 以上、それ以外の時期は 5% 以上としている。変わったところでは、牛乳の色にこだわっていて、蒜山の牧草を一杯食べさせ、ベータカロチンを多く取り込み黄色い色を良しとしている。



【参加酪農家の現況報告】

そして、出席された全酪農家の方々の現況が報告された。厳しい酪農情勢の中、飼料作りや関連製品の製造・販売等、各地での様々な取り組みの紹介があった。主な取り組みは次のとおり。

- ・ 道の駅でジャージーソフトクリームを販売、北海道では次回全共でホルスタインが出品できなくてもジャージーならばと考えている酪農家がいるので、ジャージーは増える傾向にある(北海道)
- ・ 乳製品の工房を作ろうとしている。ジャージーは乳成分が高く、飼養管理スペースは少なく、餌もそこそこであり、乳製品の製造効率が高い。成分の高いジャージーの価値を皆さんとなお一層高めていければと思う。そして、純粋なジャージーを増やすためにも、生産者として登録をしっかりと行い、純粋なジャージーを普及させたい(北海道)

- ・ 従来からのフリーストールにフリーバーンを増築したところ、同じスペースでホルスタインよりジャージーのほうが頭数にして2～3割多く飼える。和牛の受精卵をやっているの、それなりに増収となる(北海道)
- ・ 観光牧場として、夜に鹿を見るナイトツアーを行い好評を博している。ただ無料のため、有料化を考えている。やはり、ソフトクリームでの収益が大きい(群馬)
- ・ 駅前でソフトクリーム、クレープ、牛乳の店を出している。牛乳は宅配もしている。牧場体験も実施(福井)
- ・ ジャージーのソフトクリームは、いわゆる市販のものより50円高いがよく売れている。先日、札幌大丸の九州物産展で対面販売で売ったところ人気を博した。近々、シンガポールへ行って販売することになっている。(熊本)

【管内の酪農家視察】

2日目は参加者全員で二若牧場(二若信彦さん)と朝鍋牧場(筒井大悟さん)を訪問した。

最初に訪れた二若牧場は築60年という葉タバコ乾燥納屋を改造した繋ぎ牛舎で、搾乳牛26頭をご本人とご両親の3人で世話をしている。長命連産で飼うことを実践し、殆どの牛は7、8産する。年間の更新は4頭程度で済む。これは繁殖成績が極めて良いからであり、平均分娩間隔は386日と極めて短い。それでも経産牛1頭当たりの乳量は6,576kg、乳脂肪率5.01%、蛋白3.98%、SNF9.36%と良好。体型の素晴らしい牛が多く、最近3年間で5頭のEX牛を輩出している。

自動登録農家。前日の共進会では2歳級で2席だがベストアダーを得た。



(中央の白い繋ぎ服が二若さん)

続いて訪れた朝鍋牧場(筒井大悟さん)は建てて6年になるフリーバーン牛舎である。経産牛90頭と育成牛40頭をご両親と3人で飼っている。昨日の共進会ではGCに輝いた。ドライと育成牛牛舎(離乳後～6カ月齢)は、この2月に完成したばかり。6

カ月齢から分娩前までは道路を挟んだ離農された牛舎と放牧地を借りて飼育している。事業で建築したフリーバーン牛舎であるが、まだ増頭中。草地は30畝でチモシーとオーチャードの混播。1番草でロール800個取れる。

最近の牛群検定成績では、経産牛1頭当たり年間成績が乳量6,497kg、脂肪率5.04%、蛋白3.97%、SNF9.31%と良好。繁殖成績も平均分娩間隔400日と良い。

自動登録農家。前日の共進会では2歳級で全体のグラチャン。



(中央の青い繋ぎ服が筒井さん)

この秋は天候が不順であり、今回のフォーラム会期中も、共進会終了と同時に雷鳴が轟き、2時間程度土砂降りとなり、出品者の方々は牛の持ち帰りが大変だったと考えられる。それでも参加者と出品者、関係者を交えての交流会は定刻過ぎに始まり、おおいに盛り上がったようである。地元おかやま酪農協を始め蒜山酪農農協の方々にも大変お世話になりました。参加者を代表して感謝いたします。